

1 体育を入口に、知・徳・体の調和へ

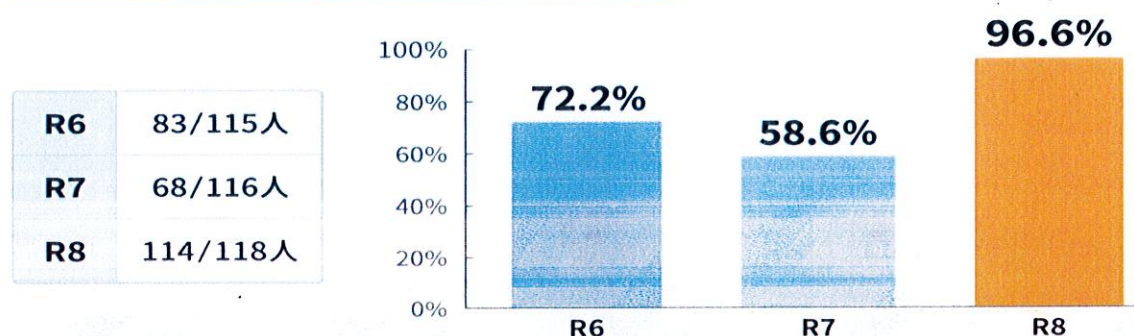
院庄フィジカルは、体育だけを重点化する取組ではない。体育を入口に、知・徳・体の調和のとれた児童を育てる。令和7年度3学期から、体育の専門家であるPTA会長・津田会長を体育アドバイザーとして迎え、令和8年度1学期は本校教員と協働しながら、全学級で体育授業の改善に取り組んだ。「児童を十分に動かす」「説明を短くする」「待ち時間を減らす」「苦手な児童にも段階的な課題を用意する」など、45分間の運動量と成功体験を保障する授業づくりを進めてきた。

2 全員が「昨年度の自分」からスタート

岡山県「体力アップ・マイベストチャレンジ！」では、体力合計点だけでなく、種目ごとの伸びや個人の頑張りを評価し、運動への関心・意欲を高めることを重視している。本校では、2～6年生118人全員が昨年度の自分の記録をもとに、伸ばしたい目標種目を決めてスタート。昨年度の自分を振り返る→自分の目標を決める→挑戦する→自分の伸びを確かめる。比較する相手は友達ではなく、「昨年度の自分」である。

3 3年間の達成状況

3年間の達成率の変化



児童数の増加ではなく、達成率そのものが大きく伸びました。

津田体育アドバイザーの専門性
× 教員の共通理解と組織的実践
× 子ども自身の目標設定

R6は115人中83人、72.2%、R7は116人中68人、58.6%でした。R8は2年24人、3年27人、4年21人、5年20人、6年22人、計114人が県の達成基準を満たした。118人に対する達成率は、96.6%である。

4 今回の成果を2学期へ

96.6%を「成果が出た」で終わらせない。「自分で目標を決める」「挑戦する」「振り返る」「次の一步を決める」このサイクルを2学期以降の体育授業でも継続する。1学期で総括したように、院庄フィジカルは、「成果を確認する段階」から「成果を再現できる仕組みをつくる段階」へ進み出している。体育を入口に、自分で目標をもち、挑戦し、自分の伸びを実感できる子どもへ。

※一学期の総括で整理した「専門家の支援」「全校での組織的実践」「運動への好意的な土壌」という三つの中核要因が、今回の成果にもつながっていると捉えている。